井関グループのサステナビリティ

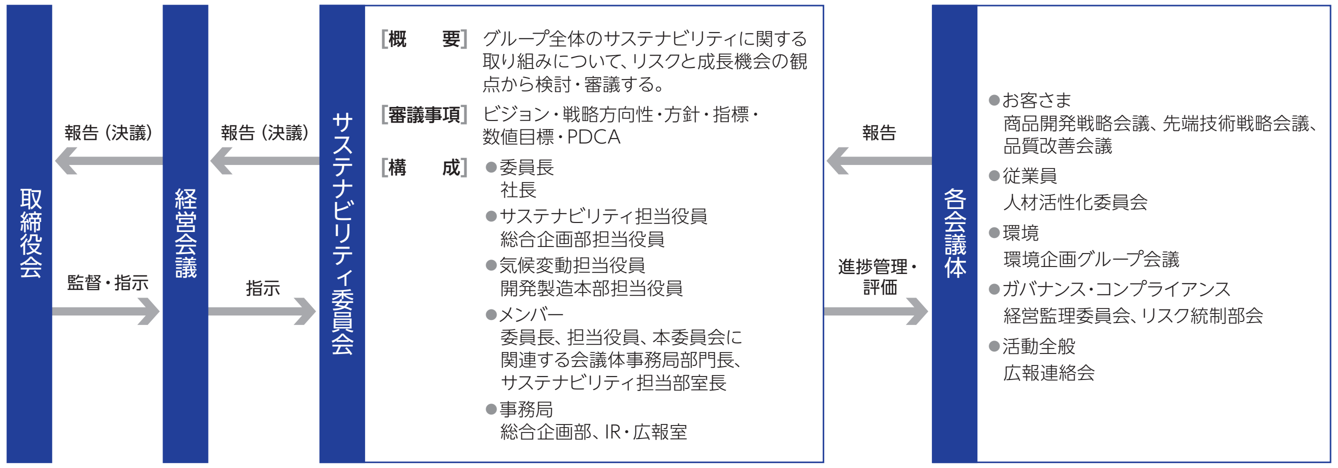
サステナビリティ基本方針

井関グループは、「農家を過酷な労働から解放したい」という創業者の想いのもと、「『お客さまに喜ばれる製品・サービスの提供』を通じ豊かな社会の実現へ貢献する」を基本理念に掲げています。

私たちは、ステークホルダーの皆さまとともに持続可能な社会"食と農と大地"の実現を目指します。

サステナビリティ推進体制

サステナビリティを巡る課題への取り組み強化を目的に、従来の「CSR推進会議」を発展的に解消させ、代表取締役社長を委員長とする「サステナビリティ委員会」を2021年7月1日に設置しました。各マテリアリティに対する取り組みは、本委員会において進捗を管理しています。委員会は原則として年4回開催し、気候変動への対応や人権の尊重、従業員をはじめとするグループ全体のサステナビリティに関する取り組みについて、リスクと成長機会の観点から検討・審議を行っています。また、委員会にて審議した内容は取締役会に報告し、基本方針・マテリアリティ・その他重要な事項については、取締役会において審議・決定する仕組みとすることで経営陣の関与強化を図っています。



サステナビリティの浸透に向けて

井関グループ全体にサステナビリティを浸透させるために、従業員に向けてトップダウンによるメッセージの継続発信を行うとともに社内報や勉強会などを通じた浸透活動を行っています。特に、若手・中堅社員向けに井関グループのビジョンや理念などの共有に注力しています。社員一人ひとりが日常業務において意識し、行動に結びつけていけるよう、販売や製造現場の社員への浸透も強化していきます。

事例／SDGs勉強会の実施

従業員に井関グループの事業とSDGsの関わりについて理解を深めてもらうことを目的に、幅広い部門の若手・中堅社員、一部管理職を対象にオンラインにてSDGs勉強会・ワークショップを開催しました。世界の状況や社会課題について学ぶとともに、「SDGsの達成に向けて井関グループとしてできること」などについて考えるグループワークに取り組み、活発な議論が行われました。勉強会後のアンケートでは、参加者の9割がSDGsの本質や考え方について「よく理解できた、理解できた」と回答しました。

参加者の声
- バックキャスティング思考をはじめさまざまな新しい考え方も身につけることができた。
- 回り巡ってという視点で、理想の会社像を想像することがSDGsを考えることにもつながっているのが新鮮だった。
- 普段交流のない部門とのグループワークは、それぞれ視点の違いを認識することができて良かった。

ステークホルダーエンゲージメント

基本方針（基本的な考え方）

- 経営層による直接的な対話をはじめ、ステークホルダーの皆さまとの建設的な対話を行い、強固な信頼関係の構築に努めます。
- 情報開示においては、「情報を適切に開示し、社会的説明責任を果たす」こと、および「社会的説明義務の大切さを認識し、グループ内外に対して、必要な情報の迅速で正確な開示に努め、透明性のある企業作りを心がける」ことを基本としています。
- 株主・投資家の皆さまやお客さまをはじめ、お取引先・地域社会・従業員など、あらゆるステークホルダーからの井関グループに対する適正な評価と経営の透明性を確保するため、井関グループに関する経営関連情報などについて、フェアディスクロージャールールの趣旨・意義を踏まえ公平・公正かつ適時・適切な開示に努めます。

主なステークホルダーエンゲージメント

さまざまな対話を通じていただいたご意見等は、取締役会や会議体での報告・レポートなどにより、取締役・経営陣および関連部門に情報共有し、事業活動に反映・改善を図っています。

ステークホルダー	エンゲージメントに対する考え方	対話の機会
お客さま	お客さまに満足していただける、高品質かつ安全な商品・サービスを提供するため、農業機械の活用や安全な使用に関するご説明、栽培技術などの営農提案・サポートを行っていきます。また、対話を通じてお客さまの真のニーズの把握に努め、より良い商品開発につなげていきます。	セールス・サービス担当との直接対話、ユーザー交流会経、訪問経、各種研修・講習会、展示会・実演会経、営農技術提案・支援、市場調査
お取引先	持続可能なサプライチェーンの構築に向け、取引先の皆さまと協調し、公平・公正な取引をはじめ、相互の事業の発展に結びつくよう相互研鑽の機会創出に取り組んでいきます。	協力企業IR説明会経、ディーラーミーティング経、優良企業見学会経、調達先の視察・面談経、業務連絡会経、井松会定期総会経、訪問（国内・海外）経
地域社会	地域社会との共生に向けて、環境保全や地域の成長・発展に向けた活動、次世代育成に向けた活動に取り組んでいきます。	製造所・展示館見学経、清掃活動などの社会貢献活動、自治体などとの意見交換経、地域イベントへの参加経
従業員	働きやすい職場づくりと人材の育成に向けて、安心・安全な職場の提供や会社情報の共有、キャリア形成のサポートなどに取り組んでいきます。	社内IR経、団体交渉経、労使協議会経、社員大会経、各種研修、各種表彰大会やコンクール経、OB/OG会経
株主・投資家	株主・投資家の皆さまと長期的な信頼関係を築くため、コーポレートガバナンスの強化に努めていきます。ディスクロージャーポリシーに基づいた建設的な対話を行っていきます。	株主総会経、決算説明会（年4回）経、個別ミーティング経、個人投資家・個人株主向け説明会経、施設見学会経

経は、経営層の関与があるもの

株主・投資家との建設的な対話

対話充実に向けた取り組み

株主・投資家との建設的な対話においては、経営管理部門（IR・広報室、総合企画部、財務部、総務部）の担当役員が統轄し、社長・役員・経営管理部門が決算説明会をはじめとしたさまざまな機会を通じた積極的な対応に努めています。

対話の充実に向け、IR担当者は各部署と連携し、開示資料など開示情報の充実や毎月の広報連絡会にて各部署との連携・情報共有を図っています。また、ホームページに株主・投資家専用ページを設け、開示情報をわかりやすくご紹介しています。

今後、プライム市場のコンセプトである持続的な成長と企業価値の向上に向けて建設的な対話を実践していきます。

株主重視の株主総会運営

株主の皆さまが出席しやすい環境を整え、株主重視の総会運営を図っています。株主総会招集通知は、株主総会開催日3週間前の発送や発送日前にホームページに掲載するなどのほか、議決権行使の利便性向上のため郵送に加え、インターネットによる議決権の電子行使を可能にしています。

また、井関グループに対する理解を少しでも深めていただくことを目的に、事業報告のビジュアル化を行い、トピックスを掲載し、井関グループの取り組みをご紹介しています。また、第98期定時株主総会においても、コロナ禍における株主の皆さまの安全を第一に考え、動画による配信を行いました。

所有者別株式分布状況はP70をご参照ください。